

令和6年度 施策・基本事業マネジメントシート（令和5年度実績に基づく評価）					作成日 令和 6 年 7 月 30 日		
政策体系	基本目標名	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		施策主管課長	スポーツ推進課	
	政 策 名	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり				
	施 策 名	1	スポーツツーリズムの推進				
施策関係課	広報ブランド推進課、市民生活課、産業政策課、農政課、農山村振興課、観光推進課					福岡英樹	

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的 「対 象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標		単位	R4	R5	R6	R7	成果指標 設定の考え方	①②③スポーツツーリズムの経済効果を地域の活性化につなげることが施策の目的であるので、ツーリストの呼び込みにつながるスポーツ大会等の開催回数と大会等に市外から参加した人数、また、大会等を盛り立てるために協力してくれたボランティアの人数を成果指標とした。 ④スポーツツーリズムによる地域経済、市民生活等への波及効果を確認するため、スポーツ目的で本市に来訪した人の宿泊、飲食、観光等の消費額を成果指標とした。	
	①国内(特に関東)に居住する人、インバウンド訪日者	① 関東地方1都6県の人口		千人	43,535	43,527					
	②市民	② 市人口		人	115,700	114,695					
	③市内事業所	③ 事業所数(H28経済センサス調査)		社	6,236	5,884					
	④スポーツイベント等で使用される施設・スポット等	④ 市有スポーツ施設		施設	42	42					
施策の目的 「意 図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標(意図の達成度を表す指標)		区分	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標の 取得方法	① スポーツ立市推進課資料(関連スポーツ団体、市スポーツ施設の調査) ② スポーツ立市推進課資料(関連スポーツ団体、市スポーツ施設の調査) ③ スポーツ立市推進課資料(市内スポーツ団体及びスポーツボランティア登録者調査) ④ スポーツ立市推進課資料
	①スポーツをきっかけに佐野市を訪れてもらう。 ②スポーツボランティア等でスポーツに関わり、おもてなしの心でスポーツツーリストを受け入れる。 ③スポーツツーリズムを盛り上げることで、地域の稼ぐ力をつけ、活性化につなげる。 ④本市のスポーツ資源を生かしたスポーツ大会、合宿等が実施される。	① 宿泊者のあるスポーツ大会又は合宿の数	目標	件	10	20	30	40			
			実績		28	28					
		② スポーツイベント又は合宿への市外参加者数	目標	人	5,500	6,500	7,500	8,500			
			実績		7,241	13,447					
		③ スポーツ大会、イベント等に協力するボランティア数(延べ数)	目標	人	600	1,200	1,500	1,800			
			実績		323	190					
		④ スポーツ目的で本市に来訪した人の域内消費額	目標	千円	165,000	195,000	225,000	255,000			
			実績		108,558	154,309					

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標				区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標				区分	単位	R4	R5	R6	R7										
スポーツ ツーリズム の推進	①スポーツ ツーリスト ②市民、事 業者 ③スポーツ 施設	①スポーツ大会等 が提供される。 ②スポーツツー リズムがもたらす経 済効果享受する ③施設利用によ り、交流人口の拡 大、経済効果が 高まる。	①誘致などした大会、合 宿数	目標	件	8	12	16	20	スポーツを 支える環 境づくり	①市民 ②スポーツ 団体	①スポーツボラン ティアとして大会、 イベントに関わる。 ②スポーツボラン ティアが活動する 場を提供できる。	①スポーツ大会等ボ ランティア数	目標	人	600	1,200	1,500	1,800																
				実績	11	9			323					190																					
			②スポーツイベント等の 市外参加者数	目標	人	5,500	6,500	7,500	8,500				5	10	15	20	②ボランティア参加 の大会等	目標	件						4	3			③登録ボランティア 数	目標	人	150	150	155	155
				実績	7,241.0	13,447			4						51	12																			
			③市主催イベント等で 関わる事業者	目標	社	20	30	40	50								④	目標												④	目標				
④	実績											実績								実績															
クリケット を活用した 地域活性 化の推進	①クリケッ ト場来場者 ②市民、事 業者 ③クリケッ ト関連人材	①クリケット場に来 場してもらう。 ②クリケットをきっ かけにした地域活 性化、経済活動に つなげる。 ③本市に移住・定 住してもらう。	①市クリケット場来 場者数	目標	人	10,000	12,000	14,000	16,000				①	目標						②	目標														
				実績	39,889	37,948											実績																		
			②クリケット関連の 域内消費額	目標	千円	60,000	65,000	70,000	75,000								③	目標						④	目標										
				実績	51,804	78,295										実績																			
			③クリケット関連移 住・定住者数	目標	人	5	5	5	5									④	目標							実績									
④	実績		2	3									実績								実績														

3. 施策の目標達成度評価

令和5年度施策の取組方針		施策の取組方針・成果指標達成状況			
施策	・さのマラソンについて、ボランティアの拡充や企業協賛を積極的に募るなど、新たな手法を採用入れるよう大会の方向性を見直すとともに、マラソン大会組織委員会及び事務局の体制を再構築する。 ・スポーツツーリズムについて、SNS等を駆使して、魅力的な情報発信を行うとともに、受け入れ態勢の充実を図る。 ・コロナ禍が継続することを見通しながら、インバウンドによるクリケット誘客を含むスポーツツーリズムのあり方を検討する。 ・クリケットを活用したインバウンドを推進し、競技関係者と市民・市内事業者をつなげる機会を増やし、クリケットを通じた経済交流・産業振興・教育・国際交流に取り組む。 ・スポーツボランティアの魅力を発信し、スポーツボランティアが活躍する場を拡大する。大会、イベント等を実施するスポーツ団体とボランティアを結ぶ制度を構築する。 ・2022年開催のいちご一会とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会を単なる競技会に終わらせることなく、関係者に再び訪れていただくなど、レガシーとして夢や感動・希望を承継する。	取組方針	☐ 全て達成	【施策の取組方針達成状況】 ・さのマラソンは、広報やSNSにより募集したボランティアや企業からの人的及び協賛金等の協力を得て、大会を開催することが出来た。また、大会の方向性として、新たな種目であるハーフマラソンを検討した。(さのマラソン大会開催支援事業) ・スポーツツーリズムは、情報発信アプリX(佐野市スポーツ推進課・佐野クリケットチャレンジ)を運用し、各種イベントやクリケット大会で本市を訪れた選手の活躍等を発信した。(スポーツツーリズム推進事業、クリケット活用地域活性化事業) ・スポーツツーリズムのあり方については、令和5年5月、新型コロナウイルスが感染症法上の5類感染症に移行したことに伴い、行動制限が解除され、基本的な感染対策を行ったうえで、これまでどおり積極的な誘客促進に取り組む方針とした。(スポーツツーリズム推進事業) ・クリケットの活用は、インバウンドではないが、在日外国人が多く集まるSBIカップやエンパシーカップ等の際、庁内各課の連携により交流会やいちごなどの物産品のPRを実施した。また、来佐する選手たちに市内宿泊施設の情報を英語版で紹介した。(クリケット活用地域活性化事業) ・スポーツボランティアは、スポーツボランティアの活躍の場の拡大を図ることが出来なかった。また、その制度についてはスポーツ推進審議会に諮った。(スポーツボランティア育成事業) ・国体のレガシーは、さのマラソン大会やスポーツ庁長官講演会をスポーツ推進基金を活用し開催した。(さのマラソン大会開催支援事業)	
			☒ 一部未達成		
		成果指標	☐ 全て未達成		
			☐ 全て達成	☒ 一部未達成	【施策・基本事業の成果指標達成状況】 ・スポーツツーリズムの推進に関しては、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、各種大会、合宿の増加により参加者数も増加し、目標を上回った。(スポーツツーリズム推進事業) ・スポーツを支える環境づくりに関しては、スポーツボランティアが活躍の場の拡大を図ることが出来なかったこともあり、目標を下回った。(スポーツボランティア育成事業) ・クリケットを活用した地域活性化の推進に関しては、海外からのクリケットチームや在日外国人の来佐により来場者数、域内消費額は目標を上回った。(クリケット活用地域活性化事業)
		☐ 全て未達成			

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
	・国は、2011年「スポーツツーリズム推進基本方針」で基本的考えを示し、2017年「第2期スポーツ基本計画」で、スポーツを通じた地域活性化の具体的な施策として「スポーツツーリズム」を盛り込んだ。 ・本市においても、本市の特徴的スポーツであるクリケットを活用した地方創生事業は、「スポーツによる地域活性化」の機運を高めるものとして、市議会をはじめ関係者に期待されたが、令和元年東日本台風、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、今後の方向性が懸念されている。 ・国は、2016年自転車の活用を総合的かつ計画的に推進するため、自転車活用推進法を策定した。 ・令和5年4月、佐野市観光協会が観光地域づくり法人(DMO)の地域DMOに登録された。 ・令和5年5月、新型コロナウイルスが感染症法上の5類感染症に移行した。 ・令和5年7月、県は、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の有形・無形のレガシーを確実に継承し、スポーツを活用した地域活性化や新しいとちぎづくりに向けて、栃木県スポーツコミッションを設立した。 ・令和5年10月、2028ロサンゼルスオリンピックにクリケットが追加競技として承認された。	市民	事業所	行政
		・スポーツを「する人」として関わるだけでなく、トップレベルの競技大会や「見(観)る人」、指導者ボランティア等の「支える(育てる)人」としても、関わる。	・スポーツイベントに協賛、出店、業務委託等で協力する。 ・スポーツツーリズムに協力し、域内消費額の拡大を図る。	・スポーツツーリズムで快適に利用できる施設の確保と提供。 ・コロナ禍の「新しい生活様式」に沿ったスポーツ施設の受入れ環境の整備 ・ツーリズムに繋がる大会、イベント等へ市民や事業者を巻き込む。 ・市民に対し「支える(育てる)スポーツ」への参画を促す。 ・佐野市自転車活用推進計画に基づき、サイクルツーリズムを推進する。 ・佐野市観光協会(地域DMO)や栃木県スポーツコミッションと連携を図る。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
・令和5年5月、新型コロナウイルスが感染症法上の5類感染症に移行したことに伴い、行動制限が解除され、大会やイベント参加者数が増加した。このことから、スポーツイベント等の市外参加者数は前年比186%、スポーツ目的で来訪した人の域内消費額は前年比133%と増加した。 ・大会やイベントに協力するボランティアの数については、前年比59%で目標を下回る結果であったことから、活躍の場の拡大を図ることや、スポーツボランティアの果たす役割等を積極的にPRする事が必要と考える。 ・スポーツ目的で来訪した人の域内消費額は成果指標の目標を79%と下回っていることから、スポーツツーリズムに繋がる大会・イベントの見直しを図り、市外からの大会参加者数を増加させる。 ・「石井琢朗杯」や「BCリーグ佐野市民デー」、「さのマラソン」、「ツール・ド・奥佐野」、クリケット大会「SBIカップ」等のツーリズムに繋がる大会や関連イベントを支援し、市外からの来訪者の増加に努めた。また、主に市内事業者に大会等に関する人的協力等を依頼した。 ・スポーツボランティアを活用し「おもてなし」醸成を推進した。しかし、スポーツボランティアが活躍する場としては、さのマラソン大会や大澤駅伝競走大会等しか提供できなかったことや、周知活動が広報等でしか出来なかったことにより、登録ボランティア数などの目標を下回った。 ・クリケット大会を活用した集客事業及び市民がクリケット場に訪れる機会を増やすためのイベントを実施した。また、SBIカップ、エンパシーカップ等を通して、在日大使館等との交流を行い、本市の魅力を伝えることができた。 ・施策コストは、令和5年度は41,917千円で、令和4年度230,001千円と比較し188,184千円の減額となった。主な要因としては国民体育大会開催事業の皆減によるものである。	【令和6年度で解決する課題】 ・さのマラソン大会において、新たな種目(ハーフマラソン)の設定 ・庁内各課におけるクリケット活用方針及び国際クリケット場として求められる施設の選定 【令和7年度以降にも引き継がれる課題】 ①スポーツツーリズムに繋がる各種スポーツ大会、合宿等の継続した誘致 ②クリケット国際大会等のツーリズム要素の見直し ③スポーツツーリズムに繋がる大会、イベントの見直し ④スポーツボランティア制度のPRと活躍の場の拡大 ⑤クリケット活用方針に基づく具体的な事業展開 ⑥スポーツ推進基金を活用した、大会・イベント等の実施(実施期間2023年～2032年) 【令和7年度重点課題】 ⑦クリケットによる地域の活性化及び国際クリケット場の整備	①栃木県スポーツコミッション等と連携し、利用可能なスポーツ施設と利用団体との連絡調整等を支援し、スポーツ大会・合宿の誘致を行う。 ②地域DMO(市観光協会)と連携し、宿泊先あっせん並びに観光プランの販売等を検討する。 ③市外からの参加者が増加するように、既存の大会、イベントの改良を図る。 ④スポーツボランティア制度の普及啓発を図り、登録者数を確保するとともに活躍の場の拡大を図る。 ⑤クリケット活用方針の具現化に向けて、日本クリケット協会、庁内各課との連絡調整を図る。 ⑥いちご一会とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会のレガシー承継のため、スポーツ推進基金を活用し、スポーツの魅力を感じられる事業展開を図る。 ⑦庁内組織横断的に、クリケット国際大会等関係者に対する市内産業や観光等をPRし、佐野市を知ってもらう。また、国際クリケット場に必要な整備を行う。